

Chapter

01 価値創造の軌跡

CONTENTS

- 7 私たちの精神・約束・使命
- 9 社会課題解決の軌跡
- 11 数字で見るクボタグループ

価値創造の軌跡のポイント

創業以来、クボタグループは食料・水・環境に関わる地球規模の課題解決に取り組んでいます。創業者の精神を受け継ぐクボタグループの企業理念をはじめ、社会課題解決の歴史や成長拡大の実績など、これまで創造してきた価値の原点と軌跡を示しました。



創業者精神と企業理念

1890年、19歳で鋳物業を開業したクボタグループの創業者・久保田権四郎。

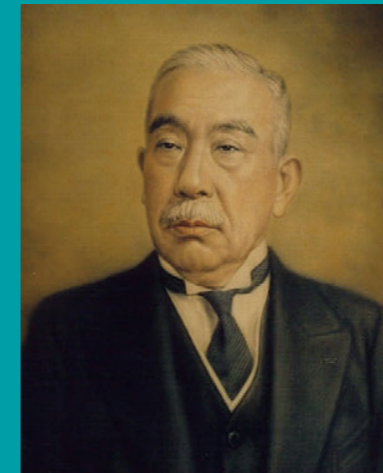
「やればできる」「失敗を恐れるな」の信念で

日本で初めて水道用鉄管の量産化や農業の機械化を実現し、

社会の発展に貢献してきました。

創業者の精神は、クボタグループの「精神」「約束」「使命」として

グループ5万人に息づいています。



創業者の精神

「国の発展に役立つ商品は、
全知全霊を込めてつくり出さねば生まれない」
「技術的に優れているだけでなく、
社会の皆様役立つものでなければならない」

創業者 久保田 権四郎

企業理念

「クボタグローバルアイデンティティ」

スピリッツ

(私たちの精神・姿勢)

- 一、総合力を生かしすぐれた製品と技術を通じて社会の発展につくそう
- 一、会社の繁栄と従業員の幸福を希^{ねが}って今日を築き明日を拓^{ひら}こう
- 一、創意と勇気をもって未知の世界に挑戦しよう

ブランドステートメント

(私たちの約束)

For Earth, For Life

Kubota

「For Earth, For Life」—

クボタグループは、美しい地球環境を守りながら、人々の豊かな暮らしをこれからも支えていくことを約束します。

ミッション

(私たちの使命)

人類の生存に欠かすことのできない食料・水・環境。
クボタグループは、優れた製品・技術・サービスを通じ、
豊かで安定的な食料の生産、安心な水の供給と再生、
快適な生活環境の創造に貢献し、地球と人の未来を支え続けます。

世界は今、人類が生きていくために不可欠な食料・水・環境の分野で多くの課題を抱えています。

それらは個別の問題ではなく、すべてが密接に結びついています。

人口の増加は、環境に大きな影響を与え、水資源に問題をもたらし、食料の供給不足へとつながっていく。

クボタグループは、食料・水・環境を一体のものとして捉え、その課題解決に貢献します。

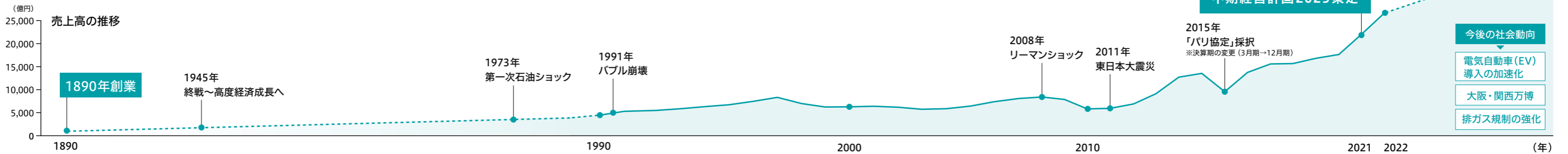
クボタ・グローバル・ループ = 「食料・水・環境」の関係
「食料」「水」「環境」は個別のテーマではなく、
密接に結び付いたテーマ



クボタ・グローバル・ループ

社会課題解決の軌跡

クボタグループは創業以来、人類の生存に必要な食料・水・環境の分野で社会に貢献し、地球と人の未来を支えることを使命としてきました。これからもこの使命を土台とし、「豊かな社会と自然の循環にコミットする“命を支えるプラットフォーマー”」として、美しい地球環境を守りながら、人々の豊かな暮らしを支えていきます。



- 今後の社会動向
- 電気自動車(EV)導入の加速化
 - 大阪・関西万博
 - 排ガス規制の強化

食料

GMB 2030

水

環境

豊かな社会と自然の循環にコミットする “命を支えるプラットフォーマー”

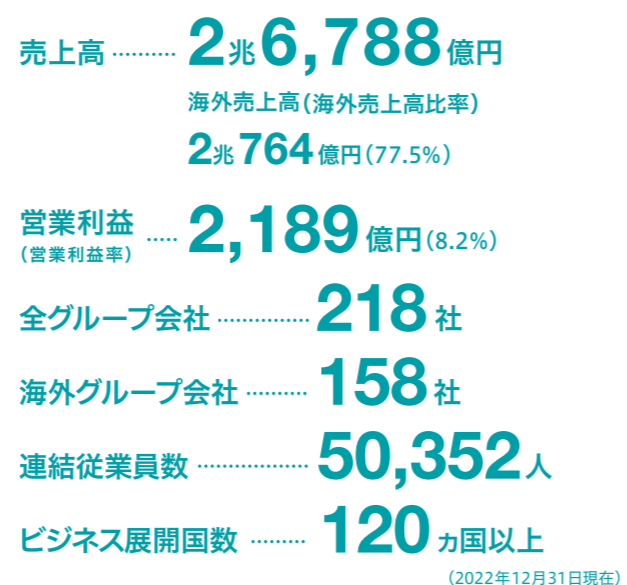
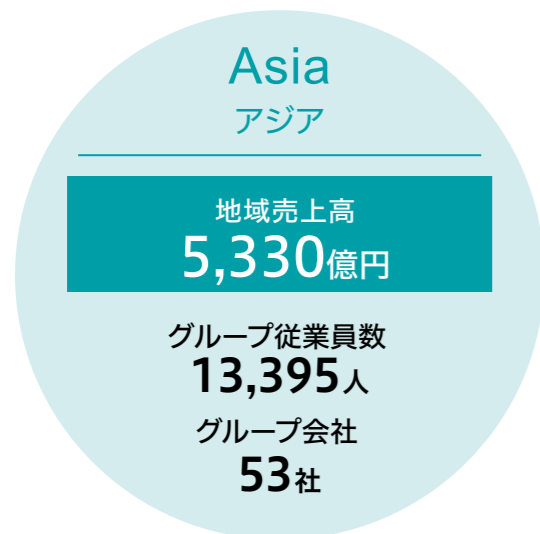
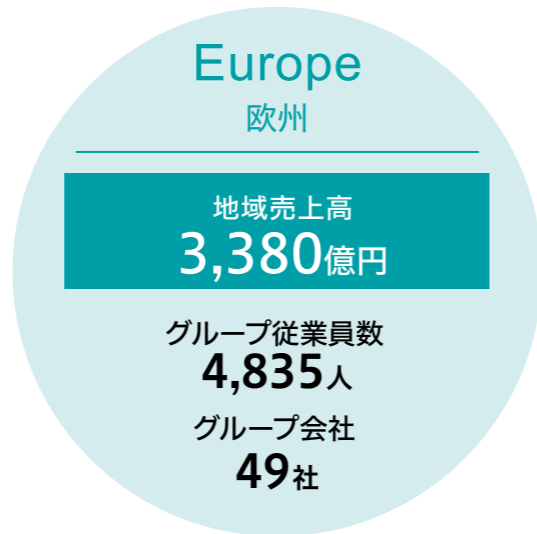
1890～1950 創業期～戦前・戦後の混乱期	1951～1972 高度経済成長期～安定期	1973～2009 低成長時代～グローバルの時代へ	2010～2016 さらなるグローバル展開に向けて	2017～ 持続可能な社会の構築へ向けて
<ul style="list-style-type: none"> 水系伝染病のまん延、上下水道整備の必要性 重工業化の高まり 戦後の食糧難による機械化ニーズの高まり 	<ul style="list-style-type: none"> 上下水道インフラ整備の高まり 都市インフラ整備の高まり 水質汚濁など公害の深刻化 	<ul style="list-style-type: none"> 各国地域の生活に合った機械化ニーズの高まり 新興国の人口増大にともなう食料需要増 円高による海外展開の加速 	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害・気候変動対応の高まり 環境意識の高まりや排ガス規制強化の動き 就農人口減にともなう農業効率化・省力化の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な経済成長の必要性(SDGs採択) カーボンニュートラルな社会の実現の必要性 IoT化の高まり

9

クボタグループ 統合報告書2023 10

数字で見るクボタグループ

創業以来、クボタグループは社会課題の解決を担う製品やサービスを提供し、国の発展とともに成長してきました。いまでは開発・生産拠点やパートナーは世界中に広がり、地域の特性にあわせて提供される製品やサービスが世界の社会課題解決に役立っています。



グローバル展開

創業
1890年2月
創業者久保田権四郎により、大阪の地で
鋳物の製造が始まりました。

国外進出
1972年9月
自社ブランドのトラクタ販売拠点として
米国カリフォルニア州に「クボタトラクタ
タコーポレーション」を設立しました。

国外現地生産開始
1989年7月
既に欧州で販売シェア1位であった小型建
設機械の製造拠点としてドイツにグループ
会社を設立し現地生産を開始しました。

イノベーション

イノベーションセンター設立
2019年6月
日本での開設、続いて同年7月に欧州に
おいてイノベーションセンターを開設し、
オープンイノベーションを企図した開発
体制を強化しています。

社外企業・団体との協働
26ケース
(2019年6月以降発表)
イノベーションセンターの開設後に提携
を発表したスタートアップ企業などの
パートナーは世界に拡大し、様々な製品
分野での協働が期待されます。

KSAS導入ユーザー
総数21,700軒以上
(2022年12月時点)
2014年にサービスを開始した営農支援シ
ステム「KSAS」はフィードバックを受けながら
年々進化し、ますます「使える」システムとし
て農業経営の持続性向上を支えています。

サステナビリティ

2014年比CO₂排出
23.6%削減
CO₂排出量(スコープ1, 2)2030年50%
の削減目標に対し、2022年度は23.6%
の削減を達成しました。

MSCI ESG格付け
AAA
建設・農業機械、および大型貨物自動車
製造業30社のなかで「Leader」と評価
されました。

Dow Jones Sustainability
Indices (DJSI) Asia Pacific Index
6年連続選定
2022年においても世界的なESG投資指標
であるDJSI Asia Pacificの構成銘柄に
選定されました。選定は6年連続となります。

トラクタ総生産台数
世界 **540**万台以上
(累計)



エンジン総生産台数
3,000万基以上
(累計)



タイのトラクタシェア/
ASEAN 8 カ国のコンバイン
シェア(合計)※
No. 1
※クローラ型コンバインに限る



エンジンのラインアップ
約 **3,700**種類

欧州の排出ガス規制
Stage V 対応

ミニバックホー販売台数
21年連続世界**1**位
出典: Off-Highway Research



ダクタイル鉄管納入実績
世界 **70**カ国以上



液中膜納入実績
世界 **7,000**カ所以上



国内高度浄水処理施設における
クボタ処理装置採用率
約 **80%**以上
※ 活性炭処理水量ベース



(注) 出典があるものを除き自社調査による